

「学力向上シンプルプラン」(R6島根県学力調査結果より)

※校内確認(入力)シート

松江市立揖屋小学校

【平均正答率】 ※全国値:全国の受検集団(学校・自治体)が毎年同じ傾向を示すことを利用して推定した値

【平均正答率】		国語	算数
5年生	本校	52.7	49.5
	島根県	65.0	55.9
	全国値	71.9	62.2

【平均正答率】		国語	算数
6年生	本校	65.6	68.2
	島根県	62.9	63.7
	全国値	69.9	67.3

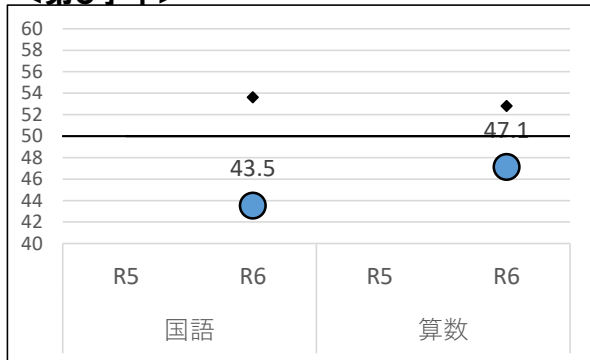
※未学習問題を登録した学校については、該当問題を除いた全国値が表示されます。

【偏差値】	国語		算数	
	R5	R6	R5	R6
第5学年		43.5		47.1
全国値◆		53.6		52.8

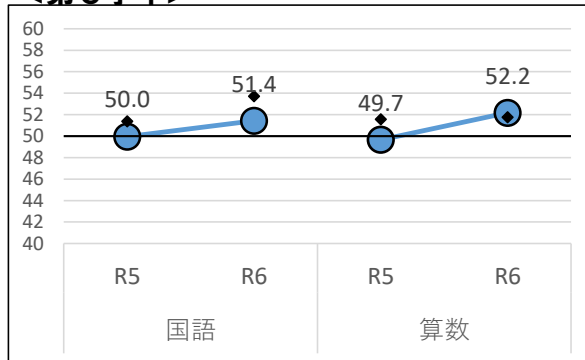
【偏差値】	国語		算数	
	R5	R6	R5	R6
第6学年	50.0	51.4	49.7	52.2
全国値◆	51.4	53.7	51.6	51.8

※【偏差値】
島根県の平均正答率を「偏差値 50」としたときの換算値 (平均からどれくらい差があるかを表した数値)

<第5学年>



<第6学年>



【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題 (○成果／●課題)

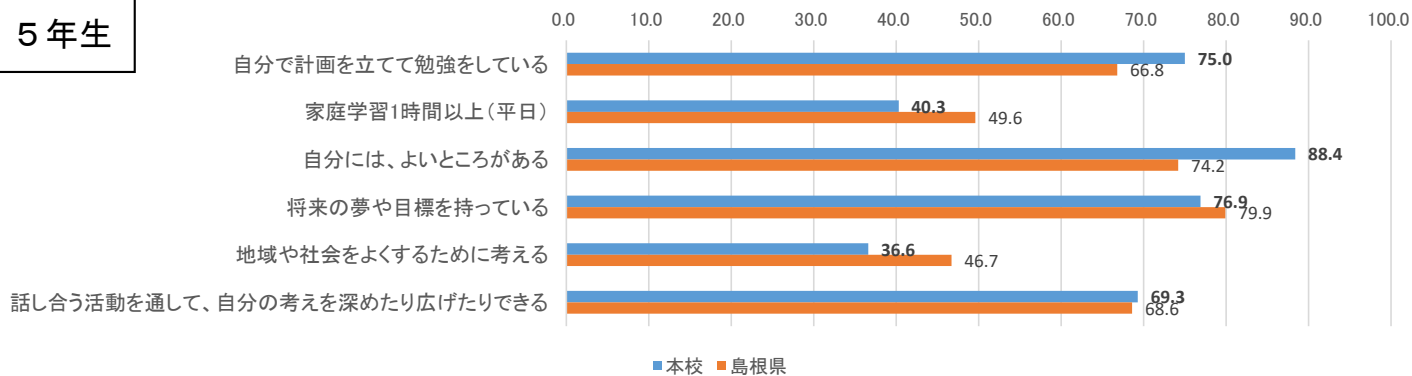
	5年生	6年生
国語	○物語の登場人物の心情を読み取ったり説明文の内容を読み取ったりすることは、県や全国の正答率と同程度か若干上回っており、読む力は、ある程度身に付いている。 ●そのほかの内容、観点は、いずれも県や全国の正答率を大きく下回っており、国語の力、全般に課題がある。 ●文字数や行数、段落数など指定された条件に合わせて文章を書く記述式の問題の正答率は、県や全国との差が大きく特に課題である。	○ほとんどの領域、観点で、県の正答率を上回っており、教科全体の力が概ね身に付いているといえる。 ○特に、昨年度5年生時に課題であった条件に合わせて記述する問題は、正答率が大きく伸びた。 ●5年生の漢字を書くことや説明文の内容を読み取ることが、県や全国を下回っており、やや課題があるといえる。
算数	○公倍数、分数のたし算・ひき算、合同などの内容が、県の正答率と同程度か上回っており、これらの知識・技能は身に付いているといえる。 ●そのほかの内容、観点は、いずれも県や全国の正答率を大きく下回っており、算数の力全般に課題がある。 ●特に記述により説明する問題に無回答が多く、難しい問題に根気強く取り組もうとする主体的な態度にも課題があるといえる。	○すべての領域、観点で、県や全国の正答率を上回っており、教科全体の力が概ね身に付いているといえる。 ○特に、国語と同じく、昨年度5年生時に課題であった記述して説明する問題は、正答率が大きく伸びた。 ●分数のわり算、分数と小数の混じったかけ算、縮図を使った長さの求め方などが、県や全国の正答率を下回っており、課題があるといえる。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題 (○成果／●課題)

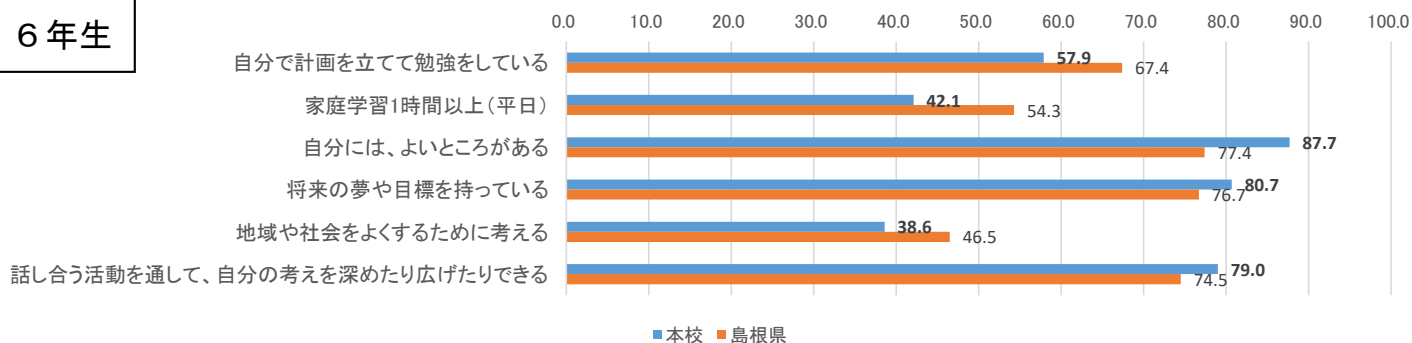
	5年生	6年生
意識	○「自分には良いところがある」と思う児童の割合は県平均値に比べかなり多く、自己肯定感はあるといえる。 ○自主学習(自分で計画を立てて学習)する児童の割合が高い。 ●家庭学習1時間以上の児童の割合は低く、家庭学習の取組に課題がある。 ●「将来の夢や目標を持っている」児童や「自分の力を伸ばしたいと思う」児童の割合が低く、日常の学習意欲や学力調査への取組に影響しているように思われる。	○「自分にはよいところがある」、「友達、先生、家の人から認められている」と思う児童の割合が多いなど、自己肯定感が高い。 ○「将来の夢や目標を持っている」児童や「自分の力を伸ばしたいと思う」児童の割合も高く、意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえる。 ●家庭学習1時間以上の割合は、昨年度5年生時より低くなっており、家庭学習の取組に課題がある。 ●自主学習(自分で計画を立てて学習)する児童の割合も、昨年度5年生時よりも低くなっている。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）

5年生



6年生



～学力向上対策の3ステップ～

（1）学力調査結果をもとにした今年度の学力向上の取組の振り返り（○：成果 ●：課題）

○6年生は、安定した人間関係と学級経営を基盤に、学習に対する姿勢や行動がより前向きになったことで、学力向上につながったと思われる。算数では、話を聞く、ノートをとる、返された答案の見直しをする、習ったことを復習するなど学習規律・学習習慣の定着によって、特に中・下位層の学力が向上した。

●6年生は、家庭学習1時間以上の割合や読書、自主学習の取組の割合が、昨年度5年生時よりかなり低くなっており、家庭学習の指導、取組が十分でなかったと思われる。

●5年生は、昨年度の5年生(現6年生)に比べ、「友達や教員から認められている」と肯定的評価をした児童の割合が低く、その人間関係や自信のなさが、学習意欲の低下につながっているように思われる。特に、上位層は下位層でその傾向が見られる。

（2）今後の学力向上に係る改善ポイント ※取組の焦点化

☆学級経営、人間関係づくりの充実…一人ひとりの自己肯定感や学習意欲を育む学級づくり、人間関係づくりを進める。

☆授業、学習活動の改善…読むこと、書くことに重点を置いた授業改善

☆家庭学習の充実…家庭学習を量的にも質的にも充実させる。

（3）今後の学力向上に係る具体的な取組 ※取組の具体化

☆学級経営、人間関係づくりの充実

- ・児童と教員の信頼関係を深め、励まし合う人間関係づくりを進める。
- ・効果のあった取組を教員間で共有したり、複数の教員の視点で多面的な児童理解に努めたりする。

☆授業、学習活動の改善

- ・語彙の少なさや読み取る力の弱さに対し、読書の時間の確保と質の向上、学習用語を適切に用い振り返りを書くことなどに力を入れる。
- ・ICT活用による画面を見ながらの情報共有や意見交流と、「自分の考えを積極的に話す」学習をバランスよく取り入れる。

☆家庭学習の充実

- ・保護者への啓発等を通して、家庭でのメディア接触の時間を減らし、家庭学習や読書の時間を確保する。
- ・復習や練習など学年に応じた一定量の宿題を継続するとともに、「家庭学習のてびき」を活用し自主学習への取組を充実させる。

【R6学力調査受検者数】

5年生

52

名

6年生

56

名

（欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示）